

平成19年度

「放課後活動支援モデル事業」
調査報告書

財団法人音楽文化創造

目次

はじめに	1
1 放課後活動支援モデル事業と調査の概要	1
2 各モデル事業の実施計画書	2
2-1 「みんなで音楽」	2
2-2 「長岡おんがくっ子塾」	3
2-3 「さくらこがしスクール」	4
2-4 「リズムで遊ぼうドレミファソ」	5
2-5 「平塚おんがくっ子塾」	6
2-6 「三好子ども音楽セミナー」	7
2-7 「錦林KIDS音楽クラブ」	8
2-8 「西宮子ども音楽セミナー～わいわいアンサンブル」	9
3 各モデル事業の実施報告書ならびに調査報告	10
3-1 「みんなで音楽」	10
3-2 「長岡おんがくっ子塾」	14
3-3 「さくらこがしスクール」	17
3-4 「リズムで遊ぼうドレミファソ」	20
3-5 「平塚おんがくっ子塾」	24
3-6 「三好子ども音楽セミナー」	27
3-7 「錦林KIDS音楽クラブ」	30
3-8 「西宮子ども音楽セミナー～わいわいアンサンブル」	33
4 総括	36

はじめに

(久保田 慶一)

平成19年度の「放課後活動支援モデル事業」に関しては、財団法人音楽文化創造が組織する生涯学習音楽指導員ネットワークが実施してきたプログラムから、特に教育効果が高く、継続性に優れていると思われるプログラム8つを選び、モデル事業として実施した。

本報告書は、各プログラムの実施計画書、実施報告書、ならびに有識者による現地調査報告から構成されている。

1 放課後活動支援モデル事業と調査の概要

モデル事業として実施された8つのプログラムの概要ならびに調査者は、次の表のとおりである。

	プログラム名	実施場所	実施責任者	調査者
1	「みんなで音楽」	札幌市	三上 佳美	澤崎 眞彦(東京学芸大学教授)
2	「長岡おんがくっ子塾」	長岡市	小林 和子	野島 正也(文教大学教授)
3	「さくらこがしスクール」	宇都宮市	和久 文子	立田 慶裕(国立政策研究所主任調査官)
4	「リズムで遊ぼうドレミファソ」	つくば市	神本 みどり	八木 正一(埼玉大学教授)
5	「平塚おんがくっ子塾」	平塚市	大屋 啓子	野島 正也(文教大学教授)
6	「三好子ども音楽セミナー」	三好町	新谷 啓子	今西 幸蔵(天理大学教授)
7	「錦林KIDS音楽クラブ」	京都市	小島 律子	久保田 慶一(東京学芸大学教授)
8	「西宮子ども音楽セミナー～わいわいアンサンブル」	西宮市	岩崎 久仁子	今西 幸蔵(天理大学教授)

2 各モデル事業の実施計画書

2-1 「みんなで音楽」

実施責任者氏名:三上佳美

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	財団法人 札幌市青少年女性活動協会					
3	教室名	「みんなで音楽!」					
4	実施場所	北郷児童会館					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4人	謝金単価	5,400円		
		安全管理員数	4人	謝金単価	720円		
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年	小1~小6	②幼児参加の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	③子どもの数	15人
8	参加者の募集方法	主として札幌市青少年女性活動協会と北郷児童会館が連携して募集(チラシはネットワーク・北海道が作成)					
9	主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・邦楽器や洋楽器を鑑賞したり、演奏して音楽の楽しさを体感する ・様々なジャンルの音楽を学ぶ・歌唱をとおして歌詞や言葉の美しさを伝える ・心を通い合わせ、音楽を創っていく喜びを感じる指導の工夫 ・学んだ成果を発表する場を設ける 					
10	目ざす効果・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の楽しさ、素晴らしさを学び深める ・合奏、合唱などの共同作業から友達意識、仲間意識、協調性を育む ・挨拶や礼儀の大切さを学ぶ ・音楽の仕上げや発表に向けての目標感をもつ ・音楽を通じて豊かな心を育む・異学年、地域の大人(音楽指導員)とのふれあいや交流を体験する 					

2-2 「長岡おんがくっ子塾」

実施責任者氏名:小林和子

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	長岡市教育委員会					
3	教室名	長岡おんがくっ子塾					
4	実施場所	長岡市立中央公民館					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4人		謝金単価	5,400円	
		安全管理員数	2人		謝金単価	720円	
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年	1~6年生	②幼児参加 の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	③子どもの数	20人
8	参加者の募集方法	市報便り記載。また、市内小学校へのチラシ配布による公募。 市内公共施設でのポスター掲示および、チラシ配置による公募。					
9	主な活動内容	<p style="text-align: center;"><お箏と洋楽器のアンサンブル></p> <p>■学校で使っているリコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器と日本の伝統楽器であるお箏とのアンサンブルで従来の音楽の楽しみだけでなく、日本伝統楽器の良さを発見しながら、洋楽器で様々な人とのアンサンブルも楽しむ。</p> <p>■音楽を合わせることによって生まれる感動により、感性を豊かにし、協調性を育むことを目的とする。</p> <p>■6回目には、「ひな祭りコンサート」として地域の方を招待しての発表会を実施する。</p>					
10	目ざす効果・成果	次世代を担う子どもたちが、音楽をする楽しさや伝統音楽文化であるお箏の良さを体感し、心のやすらぎや音楽によって生まれる仲間意識を感じるにより、子どもたちの音楽文化への関心・興味を育むことを目指す。また、今後この長岡おんがくっ子塾を継続する中で、他の文化団体との連携を行うなどして、長岡の音楽文化の発展に寄与していきたい。					

2-3 「こがし桜スクール」

実施責任者氏名:和久文子

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	宇都宮市教育委員会・城山西小学校					
3	教室名	さくらこがしスクール					
4	実施場所	宇都宮市立城山西小学校					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4人	謝金単価	5,400円		
		安全管理員数	4人	謝金単価	720円		
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年	1~6年	②幼児参加 の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	③子どもの数	50人
8	参加者の募集方法	学校の全面協力の元、校内募集					
9	主な活動内容	<p>①色々なジャンルの楽器を体験し、それらを使ってアンサンブルの楽しさを学ぶ 使用楽器： 箏・リコーダー・マリンバ・エレクトーン・和太鼓(数種類)フルート・鉄琴・打楽器 曲 目： 教科書より「八木節」「シルクロード」を合奏用として編曲したもの</p> <p>②校庭にある樹齢400年以上ともいわれる“孝子桜”の伝説を脚本化し、「語りと音による創作劇」を作り上げる</p>					
10	目ざす効果・成果	学校の全面的な協力体制の元で、小規模特認校の特色を活かし、異学年交流活動を行う。そのことにより、相互の理解を図り、心の豊かさ、思いやりの心を育てる「心のアンサンブル」。					

2-4 「リズムで遊ぼうドレミファソ」

実施責任者氏名:神本みどり

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	茨城県つくば市教育委員会生涯学習課、つくば市東児童館					
3	教室名	リズムで遊ぼうドレミファソ					
4	実施場所	つくば市東児童館 つくば市内 小学校					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数		人	謝金単価		5,400円
		安全管理員数		人	謝金単価		円
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年	幼児～小学生	②幼児参加 の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無	③子どもの数	人
8	参加者の募集方法	教育委員会 及び児童館のホームページ・チラシ配布による公募					
9	主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ①音楽の基礎力(等拍・音の高低・音価・表現・等)をリトミック、わらべ歌を通して身につける ②身近な楽器(ピアノカ・リコーダー・ミュージックベル・声・打楽器等)を通してアンサンブルを体験する(仲間と協調して心と音を合わせる) ③世界共通語である楽譜読みのステップアップをめざす ④色々なジャンルの音楽に接する ⑤仲間との共同体験を楽しむ 					
10	目ざす効果・成果	<ul style="list-style-type: none"> ①コミュニケーション(親子・祖父母と孫・友達・異学年間交流) ②アンサンブルによる社会性のミニ体験(周りの音を聞きながら自己表現を楽しむ) ③遊びから音楽の基礎力の習得 					

2-5 「平塚おんがくっ子塾」

実施責任者氏名:大屋啓子

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	平塚市教育委員会社会教育課					
3	教室名	平塚おんがくっ子(子どもの村・子どもの家)					
4	実施場所	八幡小学校・松原小学校・みなと子どもの家					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4~6人	謝金単価	5,000~16,200円		
		安全管理員数	4人	謝金単価	1,800円		
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年	小1~小6	②幼児参加 の有無	④有・無	③子どもの数	20~50人
8	参加者の募集方法	社会教育課を通して募集・学校単位で募集					
9	主な活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 邦楽教室(箏・三味線・尺八講座)(箏演奏体験講座)(竹の横笛製作講座) ミュージックベル演奏講座 アングルン演奏講座 合唱講座 アンサンブル講座 					
10	目ざす効果・成果	平塚市の七夕祭りの使用済みの竹を利用した楽器作りをすることで、地元に根ざした文化活動への興味と楽器を作る喜び、演奏する楽しさを味あわせる。自ら演奏をすることにより音楽を創造し表現する楽しさを体験する。合奏することにより協調性を養う。					

2-6 「三好子ども音楽セミナー」

実施責任者氏名:新谷啓子

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	三好町教育委員会 教育部 教育行政課					
3	教室名	三好子ども音楽セミナー					
4	実施場所	新屋児童館					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4人		謝金単価	5,400円×3h	
		安全管理員数	4人		謝金単価	720円×2.5h	
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年	小1~小6	②幼児参加 の有無	有・無	③子どもの数	40人
8	参加者の募集方法	・案内用チラシの配布 ・広報誌への記載					
9	主な活動内容	<p>音楽総合講座</p> <p>①いろいろなジャンルの音楽を学び合唱する</p> <p>♪線路はつづくよどこまでもマーチ♪大きな古時計</p> <p>♪7つのフランスの子供の歌〜げんきなこども・かあさんおねがいよ〜</p> <p>♪涙そうそう</p> <p>②アンサンブルをする楽しさを学び合奏する</p>					
10	目ざす効果・成果	<p>①合唱、合奏、リズムステップといった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育む</p> <p>②基本的な挨拶や礼儀とその大切さを学ぶ</p> <p>③音楽を通して、豊かな心を育む</p>					

2-7 「錦林KIDS音楽クラブ」

実施責任者氏名:小島律子

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	京都市教育委員会					
3	教室名	錦林KIDS音楽クラブ					
4	実施場所	京都市立錦林小学校					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4人	謝金単価	5,400円		
		安全管理員数	0人	謝金単価	円		
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年	3~5年	②幼児参加の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	③子どもの数	15人
8	参加者の募集方法	学校から校内児童に呼びかけ募集。					
9	主な活動内容	箏や他の楽器のコラボという形でわらべ歌(特に京都に伝わる)を歌い演奏することによって、子どもの伝統の継承をしたい。わらべ歌を通して音楽の楽しさを、リズム(身体を動かし、リズムを体感する)、歌(手遊ぶ歌、手話付き歌)、楽器(箏・リコーダー・ミュージックベル・木琴・鉄琴・ピアノ等)の色々な表現すると同時に、それらの合奏を共に楽しむ児童同士の根強い絆も作っていききたい。それを学校内や地域に発表し発信していく場を広げていきたい。今回は少しずつ理論的なことにも入っていったらと思います。(例えば簡単な曲作りなど)それと共に世界の様々な音楽や楽器に接する機会もつくりたい。					
10	目ざす効果・成果	途絶えていきつつある伝承のわらべうたを身近に感じ、遊びや歌、楽器の演奏などを通して友達との親近を体感していくようになる。					

2-8 「西宮子ども音楽セミナー～わいわいアンサンブル」

実施責任者氏名:岩崎久仁子

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名(教育委員会等)	西宮市教育委員会 社会教育・文化財グループ					
3	教室名	「西宮子ども音楽セミナー」～わいわいアンサンブル～					
4	実施場所	夙川西市民館					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4人	謝金単価	5,400円		
		安全管理員数	4人	謝金単価	1,200円		
7	参加者(1回あたり)	①対象学年	小学生	②幼児参加の有無	有・無	③子どもの数	30人
8	参加者の募集方法	・近隣の小学校にチラシ配布(近隣関係校2000校) ・西宮市政ニュース掲載(11月) ・公民館・市民館にチラシ設置 ・大手新聞社掲載依頼 ・ミニコミ紙掲載依頼					
9	主な活動内容	①学校で学んでいる鍵盤楽器、リコーダーを加え、邦楽と洋楽のアンサンブル(生涯学習音楽指導員は邦楽、洋楽の指導を特色とし、邦楽、洋楽のコラボレーションが可能である) ②学校で学んでいない楽器体験(ギター・バイオリン・ハープ・大正琴・管楽器・和太鼓)・地域の音楽団体、音楽家と連携し、各回ごとに専門の講師を招き楽器体験を行う ③名曲鑑賞(生涯学習指導員による演奏) ④合唱・手話・ミュージックベルにより音楽によるコミュニケーションをはかる ⑤最終回は保護者とともに修了コンサートを開催する ⑥地域団体(市民館まつり)自治会・青少年愛護協会のコンサートに参加する					
10	目ざす効果・成果	①アンサンブルによる共同作業を通して仲間意識、協調性、養う ②楽器体験により、未知の領域にたいする創造性を培う ③名曲を鑑賞することにより、豊かな心を育む ④音楽による笑顔のコミュニケーションで充足感を体感する ⑤修了コンサートで他者より評価される喜び、達成感を味わい、自立性を養う ⑥地域の行事への参加により、放課後の地域での子ども健全育成を図る ⑦本セミナーは、異学年、高校生、大学生、大人、との異世代交流の音楽体験の場とする					

3 各モデル事業の成果及び調査の報告

3-1 「みんなで音楽」

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	財団法人 札幌市青少年女性活動協会					
3	教室名	「みんなで音楽!」					
4	実施場所	札幌市北郷児童会館					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	6人	謝金単価	5,400円		
		安全管理員数	6人	謝金単価	720円		
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年	小1~小6	②幼児参加の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	③子どもの数	15人
8	参加者の募集方法	札幌市青少年女性活動協会と北郷児童会館					
9	主な活動内容 (実施回毎に)	<p>1回目：平成19年11月17日(土)「開講式」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・指導員の演奏…・箏と洋楽器の合奏演奏 ・箏のお話と体験 <p>2回目：平成19年12月8日(土)「楽しくアンサンブルをしよう!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏と洋楽器の合奏 「かえるのうた」 ・楽器、作曲者あてクイズ ・歌唱指導 「大きな古時計」 かんたんな二部唱 <p>3回目：平成19年12月22日(土)「クリスマスを楽しもう!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏と洋楽器の合奏 「オーシャンゼリゼ」 ・クリスマスツリーを作ろう ・音楽紙芝居 「ピノキオ」 効果音にチャレンジ ・サンタクロースの福笑いをしよう <p>4回目：平成20年1月26日(土)「モーツァルト&パネルシアター」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏と洋楽器の合奏 「キラキラぼし」 ・モーツァルトを知ろう ・紙鍵盤を作ろう 黒鍵と白鍵 ・パネルシアター 「かきのきマン」効果音をつけてみよう <p>5回目：平成20年2月2日(土)「ヴァイオリンを知ろう!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏と洋楽器の合奏 「さくらさくら」 ・ヴァイオリンを知ろう 演奏鑑賞「愛の挨拶」「情熱大陸」 ・日本の歌をうたおう 					

9	主な活動内容 (実施回毎に)	<p>6回目：平成20年2月23日(土)「わらべうたの合奏・世界の楽器を知ろう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 箏と洋楽器の合奏 「かごめかごめ」 ・ 音楽クイズ グループ対抗で音楽関連クイズ ・ 世界のいろいろな楽器 ・ ドラムサークル ・ 伝統芸能……南京玉すだれ
10	計画した活動内容の 実施結果	<p>【うまく実施できた点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各指導員の工夫により子どもたちが楽しめるメニューとなった。 ② 箏に触れるだけでなく、洋楽器との合奏が子どもたちに喜ばれた。 ③ 指導の内容が吟味されていて子どもたちに集中させられた。 ④ 演奏に関わる時間と聴く、作るなどの項目の配分のバランスが良かった。 ⑤ 体を動かすことで集中ができ、時間の過ぎるのがあっという間だった。 ⑥ 箏曲を知らない子どもが多く、体験できたことが良かった。 ⑦ ヴァイオリンなどの楽器を聴いたり、触れたりできた経験が貴重だったと思う。 <p>① 子どもたちが日本の伝統楽器である箏に触れられた経験は大きい。</p> <p>② 他の人の音を聴く、合わせるなど協調性が養われた。</p> <p>③ 音楽に関連したクイズなどで音楽に興味を深めた。</p> <p>④ 音楽紙芝居、パネルシアターなどで創造力の幅を広げた。</p> <p>⑤ 鍵盤作り、楽器シールなど楽しみ方の幅を広げた。</p>
11	目ざす効果・ 成果が得られたか	<p>【高く評価できる効果・成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもたちに音楽の楽しさや、楽しみ方を伝えられた。 ② 洋楽と邦楽の両方での音楽指導メニューが充実してきた。 ③ 音楽指導をとおして、指導者・仲間を尊重する気持ちを強くもってもらえるようになった。 <p>【得られなかった効果・成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 特に見あたらない。
12	今回の事業の実施で	<p>【工夫した点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 洋楽・邦楽の融合した形態での指導の工夫。 ② 毎回の指導の流れを考えながら、バラエティに富んだ内容。 ③ 箏、洋楽器の合奏のために工夫された編曲。 ④ 子どもたちの集中力が持続する指導内容。 ⑤ 音楽指導員ならではの指導のあり方。 <p>【苦勞した点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 充実した楽器使用のため借用料の負担が大きかった。 ② 会場が広く、子どもたちにどのように声かけをするか。 ③ 1回完結型の指導で合奏指導の目標の設定。 ④ 低学年、高学年が同時に楽しめる指導の工夫。 ⑤ 予定していた時間配分での指導。 ⑥ 子どもたちを飽きさせず、完成度を高める指導。 <p>【予想以上に成果があがった点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもたちが日本の伝統楽器である箏に深い興味をもつようになった。 ② 合奏指導、グループ指導により協調性が養われた。 ③ 日常の音楽に耳を傾け、音楽をより身近に感じるようになった。 ④ 音楽紙芝居、パネルシアターなどで創造力が高まった。 ⑤ さまざまな楽器に触れ、音楽の知識、鑑賞力が身についた。 <p>【次回実施への課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 今回の指導を生かし、さらにきめ細かい指導のあり方。 ② 音楽指導員以外の音楽家、地域指導者との連携。 ③ 年齢層が広くても楽しめる指導の工夫。

【市区町村との連携状況】

- ・札幌市子ども未来局、札幌市市民課、(財)札幌市青少年女性活動協会の協力により、文化庁委嘱事業平成20年度「伝統文化子ども教室」に申請書を提出
- ・結果通知は4月下旬予定



調査者からのコメント

北海道札幌市における「みんなで音楽」の全6回のプログラムのうち、最終回の調査を実施した。会場は市内にある北郷児童会館の一室で、子どもたちが体を動かすには十分な広いフロアを存分に利用して取り組んでいた。

各回完結型で組まれたプログラムは、それぞれ非常にバランスの良い内容となっていた。特に、全6回に共通して取り組まれた「箏と洋楽器の合奏」では、日本の音楽と洋楽、およびラテン系の音楽などを工夫して取り入れた幅広い音楽内容が織り込まれていた。指導にあられた生涯学習音楽指導員が得意とする「邦楽」と「洋楽」のコラボレーションが見事に実施されており、様々な楽器に触れることのできるこの合奏は、子どもたちにとって貴重な経験になったであろう。日本の伝統芸能から世界のいろいろな楽器まで広く取り組める内容が、子どもたち自身の音楽の捉え方や認識を深める大きな成果につながり、学校での音楽教育内容以外の事柄について、新たな興味・関心と音楽活動への取り組みの芽を見ることができた。

全体を通して子どもの主体性に重点を置いた活動となっており、集中力を持続させるための工夫が随所に見られた。子どもたちの音楽への感受性および能力の深化に対して積極的に取り組んでいること

が、和気あいあいとした和やかな雰囲気でありながらも真剣なまなざしで取り組む子どもたちの表情から伝わってきた。指導員は行政との交渉から子どもたちへのさまざまな配慮まで、多くの点で精力的に関わり、それぞれの役割等が組織的に計画されて運営できたといえよう。

実施責任者である三上佳美氏のもとで、指導員全員が信頼と強調によって本事業を成功裡に終えた。三上氏は、本事業を契機として新たな取り組みを試みたいとの意欲をのぞかせていた。指導員同士が、音楽を通して子どもたちをより人間的に成長させていきたいという熱意のこもった願いによる取り組みに、敬意を表したい。

今回の調査で最も印象的であったのは、のびのびと活動する子どもたちの様子である。本事業の「放課後活動支援」としての目的が見事に達成されていたと評価できる。この活動が子どもたちにとって、いかに価値の高い活動であるかを強く感じた。今後、さまざまな学校や公共施設等で、こうした活動が広く展開されていくことを期待したい。

(澤崎真彦)

3-2 「長岡おんがくっ子塾」

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名(教育委員会等)	長岡市教育委員会					
3	教室名	長岡おんがくっ子塾					
4	実施場所	長岡市中央公民館					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4人	謝金単価	5,400円		
		安全管理員数	2人	謝金単価	720円		
7	参加者(1回あたり)	①対象学年	1~6年生	②幼児参加の有無	○有・無	③子どもの数	25人
8	参加者の募集方法	市報便り記載。また、市内小学校へのチラシ配布による公募。 市内公共施設でのポスター掲示および、チラシ配置による公募。					
9	主な活動内容(実施回毎に)	<p><お箏と洋楽器のアンサンブル></p> <p>①学校で使っているリコーダーや鍵盤ハーモニカなどの楽器と日本の伝統楽器であるお箏とのアンサンブルで従来の音楽の楽しみだけでなく、日本伝統楽器の良さを発見しながら、洋楽器で様々な人とのアンサンブルも楽しむ。</p> <p>②音楽を合わせることによって生まれる感動により、感性を豊かにし、協調性を育むことを目的とする。</p> <p>③6回目には、「ひな祭りコンサート」として地域の方を招待しての発表会を実施する。</p>					
10	計画した活動内容の実施結果	<p>【うまく実施できた点】</p> <p>①教育委員会のご協力を得て、広報が全市内に渡って実施できた。</p> <p>②参加者が音楽を本当に、心から楽しんでくれた。</p> <p>③地域新聞に取り上げられた。</p> <p>④年齢、性別関係なく互いに教えあい、励ましあう姿がいたるところにあった。</p>					
		<p>【課題として残った点】</p> <p>①指導員の個々の音楽的能力、及びコーディネーター力</p>					
11	目ざす効果・成果が得られたか	<p>【高く評価できる効果・成果】</p> <p>①子供たちの音楽に対する興味、また、伝統文化であるお箏に対する関心がかなり高まった。</p> <p>②世代間で対外に励ましあい、教え合う姿が顕著に現れた。</p> <p>③音楽文化への興味・関心が高まった。</p>					
		<p>【得られなかった効果・成果】</p> <p>①他文化団体との連携が、まだ時間不足で得られなかった。</p>					
12	今回の事業の実施で	<p>【工夫した点】</p> <p>①6回シリーズで、興味関心が継続するようなプログラムにした。</p> <p>②欠席者への連絡、励ましのハガキをだした。</p> <p>③参加者1人1人に音楽を自分達がやるという意識を持ってもらうために、楽器の準備や会場設営に協力してもらった。</p>					

12	今回の事業の実施で	【苦勞した点】 ③参加者の動員。市報など様々な媒体を利用したが、本当に参加したい人に伝わったかが、不明であり、もっと広報力が必要だと思った。
		【予想以上に成果があがった点】 ①異世代間の交流。年上の方が子供たちをととてもよく励ましてくださり、また、保護者同士のご協力も素晴らしく、参加者全員で音楽をするという意識がとても高くなった。 そのことにより、子供たちが生き生きと音楽を楽しむことができた。
		【次回実施への課題】 ①会場の場所。だれもが来やすい場所の確保。 ②指導員の音楽力・コーディネーター力。
13	来年度以降の取り組みについて	【市区町村との連携状況】 ①ある一定の条件での取り組みについての協議は、行われている。 ②予算面で条件が整えば、継続的事业として取り入れていただける事になっている。



調査者からのコメント

新潟県長岡市は、県のほぼ中央部に位置する。市の中心部には信濃川が流れる。人口は28万人強で、新潟市に次ぐ県内第2の主要都市である。戊辰戦争の折の故事に因んだ山本有三の戯曲「俵百俵」は旧長岡藩を題材にしている。また太平洋戦争時の提督・山本五十六は長岡の出身である。

「おんがくっ子塾」事業の主催は、「生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク・新潟」（代表・小林和子氏）である。実施地域は長岡市内だが、指導者は地元長岡市のほか、新潟市、上越市などから加わっている。事業は全部で6回、小学生が主な対象である。ふだん親しんでいるリコーダー等の楽器と箏との合奏体験を具体的な目標とした。

筆者が活動実態の調査に入ったのは、平成20年2月3日（日曜日）午後の「おひなまつりコンサート」だった（同行者は財団法人音楽文化創造事務局長・輪湖一男氏）。これは、6回目の最終回に当り、地域の人たちに練習の成果を見てもらう発表の場だった。会場は、市立中央図書館のホールだった（ふだんは中央公民館を会場にしていた）。この図書館は、旧新潟大学工学部の敷地に立てられた大型館で、長岡駅からも近い位置にある。会場に集まった観客は、子どもたちの家族や地域の人たち約40人だった。地元の新潟日報の記者がコンサートの始めから終わりまで、ていねいに取材をしていた。

当日の「おひなまつりコンサート」は、実質的に3段階で進行した。第1段階は、子どもたちによる箏・リコーダー等による合奏。観客席の親からみれば、やや不安を覚える演奏だったかもしれないが、子どもたちは「うれしいひなまつり」、「夕やけこやけ」「埴生の宿」

など8曲を見事に演奏し終え、会場からは大きな拍手が沸いた。

第2段階は箏の体験コーナー。会場の参加者は13弦の箏を触ったり音出して、体験を深めた。楽器の解説には、主催団体の指導者数人が当たった。第3段階は、演奏鑑賞に当てられた。ゲスト講師は、箏の分野で第一人者と目される坂本ゆり子氏である。箏の代表的な曲以外にも「涙そうそう」なども演目に加えられ、溜息が出るほどすばらしい演奏であった。最後は、箏の曲ののって会場の全員で「島唄」を歌い、別れを惜しんだ。

司会は、主催者代表の小林和子さんが務めたが、終始、子ども目線で、子どもが飽きないように、また、楽しく演奏ができるようにという配慮がなされていた。例えば、開会の場合、通常なら「これからおひなまつりコンサートを始めます」といって会が始まるどころ、小林さんは、会場の子どもの様子を見ながら、「もうーいいかいー?」と問いかけた。子どもたちが「まーだだよー」という。また「もうーいいかいー?」「まーだだよー」を繰り返し、子どもたちが「もーいいよー」と声が揃ったところで会を始めるなど、指導力の巧みさが目立っていた。

6回の「おんがくっ子塾」事業を通じて、子どもの音楽に対する興味を広げられたことはもちろん、子ども同士、親同士の親睦を深められたことも確認できた。今後は、地域の青少年育成の観点からも、この活動をぜひ継続してほしいと願っている。

（野島正也）

3-3 「さくらこがしスクール」

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	宇都宮市城山西小学校					
3	教室名	さくらこがしスクール					
4	実施場所	宇都宮市城山西小学校教室					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4人	謝金単価	5,400円		
		安全管理員数	4人	謝金単価	720円		
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年	小1~小6	②幼児参加の有無	○有・無	③子どもの数	50人
8	参加者の募集方法	学校の全面協力のもと校内募集					
9	主な活動内容 (実施回毎に)	<p>第1回 ・洋楽と邦楽のコラボレーション ♪シルクロード ♪ 八木節 ・パートを決める。 ・邦楽器のみによる演奏 ♪さくら ♪春の海</p> <p>第2回 ・各楽器のパート別練習</p> <p>第3回 ・全パートで音の流れを理解</p> <p>第4回 ・「語りと音による創作劇」に挑戦</p> <p>第5回 ・「語り」と「音」のそれぞれの練習</p> <p>第6回 ・全員で合わせて作り上げる</p>					
10	計画した活動内容の 実施結果	<p>【うまく実施できた点】</p> <p>① 色々なジャンルの楽器を体験し、それらを使ってアンサンブルの楽しさを学んだ。(♪八木節、♪シルクロードは学校の教材の中から選択し、副校長先生がアレンジを担当)</p> <p>② 校庭にある樹齢400年以上ともいわれる「孝子桜」の伝説を脚本化し、「語りと音による創作劇」を作りあげた。</p>					
		<p>【課題として残った点】</p> <p>① 「語りと音による創作劇」は脚本家の意向もあるが、もう少し音楽とのからみを増やすとなお良かった。</p>					
11	目ざす効果・ 成果が得られたか	<p>【高く評価できる効果・成果】</p> <p>学校サイドで、参加した児童を対象にアンケート調査を行った。結果、音楽の練習を通して学んだことは、友達と音を合わせることの楽しさを100%の児童が体感した。心と心のアンサンブルができた。</p>					
		<p>【得られなかった効果・成果】</p> <p>洋楽と邦楽のコラボレーションと創作劇を行ったので、創作劇にかける時間が不足であった。そのため語りと音のからみが少なくなってしまった。</p>					
12	今回の事業の実施で	<p>【工夫した点】</p> <p>① 子どもたちの身近な教材を選択すること。</p> <p>② 出来るだけ多くの子どもたちに色々な楽器を体験し、楽器の音色や奏法・特徴を知る。</p> <p>③ 子どもたちの心と心のアンサンブルができるよう心がけた。</p>					

12	今回の事業の実施で	【苦勞した点】 ① 教科書にある曲を色々な楽器の特徴を活かし編曲すること。 ② 1年生から6年生までの年齢差を越えて同じ曲を理解させ。演奏法を教えること。
		【予想以上に成果があがった点】 ① 子どもたちと一緒に先生方も体験し、全面協力してくれた。 ② アンケート調査の結果より a. やればできることがわかった b. がんばることの大切さがわかった c. 音楽が好きになった
		【次回実施への課題】 実施計画をもっと時間をかけて練り上げ、子どもたちの可能性を広げてあげたい。
13	来年度以降の取り組みについて	【市区町村との連携状況】 継続できる状況にある。



調査者からのコメント

この取り組みは、宇都宮市の小規模特認校となっている城山西小学校において行われている。当校には、城山西小の児童数の増加を図り、地域整備や地域との交流などを通じ、子どもたちにより良い学習環境を整えることを目的とする「城山西小学校を応援する会」もあり、子どもたちにとっても、地域の人々にとっても大変有意義な文化的・教育的活動が展開されている。

本事業では、応援する会の一つ、「文化人の会」のメンバーでもあり、宇都宮を代表する邦楽家である和久先生が、邦楽、洋楽といったジャンルに囚われず、音楽の楽しみを放課後活動の中で子どもたちに教え、子供たち同志だけでなく、子どもと先生との交流も図られていた。調査に訪問した際には、1年生の子どもたちへの箏の基本的な演奏法の指導と、2年生から6年生までの子どもたちによる演奏を行っていた。本調査で気づいたのは、以下の点である。

1.最も驚かされたのは、2年生から6年生の子どもたちが、それぞれ特定の楽器や曲を演奏するのではなく、曲目が変わるたびに、演奏者が交代し、多くの子どもたちがいろんな楽器を苦もなく演奏していた点である。このように多様な楽器を演奏できるようになるには、相当継続的で優れた指導がされていると推察される。

2.練習曲は、邦楽に限らず、学校の教材の中から選択され、副校長先生がアレンジした八木節やシルクロードといった誰でもが聞いたことのある身近な曲であった。この選曲がまた、子どもたちに大きな音楽の楽しみを与えている。シルクロードともなると、ちょっと

進歩させれば、交響曲や組曲にまで発展できるレベルである。

3.さらに、この事業に対しては、学校教員も参加して一緒に演奏し、音楽を楽しんでいる。本事業を通して、子どもたちと教員の間に変な親密な関係が生まれているといえよう。

4.また、楽器演奏だけではなく、楽器についての知識を学んでおり、子どもたちはそれぞれの楽器の特徴や機能をよく理解しているようであった。

5.さらに、事業の開始と終わりには、きちんとした挨拶を行っている。(本校自体、あいさつの教育が徹底してなされているようであり、子どもたちはそれをいやがらず、毎日の習慣のようにして行っている。)

本事業の効果として、和久先生が行ったアンケートでは、「やればできることがわかった」、「がんばることの大切さがわかった」、「音楽が好きになった」という効果が生まれている。調査では、校庭にある樹齢400年以上ともいわれ、市の指定文化財である「孝子桜」の伝説から作った「語りと音による創作劇」を見ることができなかったのが残念だが、その成果は、毎年、北海道や九州からも人が集まる「孝子桜まつり」にも活かされるのだろう。そこでは、当校の児童も演奏を行うという。本スクールで学んだ子どもたちもまた、そうした発表の機会を得るとすれば、さらに大きな自信へとつながっていくだろう。

(立田慶裕)

3-4 「リズムで遊ぼうドレミファソ」

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名(教育委員会等)	つくば市教育委員会生涯学習課・つくば市保健福祉部児童館					
3	教室名	リズムで遊ぼうドレミファソ					
4	実施場所	つくば市筑波小学校。東児童館					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	3人	謝金単価	5,400円		
		安全管理員数	2人	謝金単価	720円		
7	参加者(1回あたり)	①対象学年	1年・幼～小3	②幼児参加の有無	(有)・無	③子どもの数	14人・70人
8	参加者の募集方法	2箇所で開催した。①筑波小学校は教育委員会からの実施場所の要請の為 募集なし②つくば市立東児童館はパンフレット、児童館ホームページ、郵送による募集と継続クラスの新規。					
9	主な活動内容(実施回毎に)	<p>[1回 2007・11・14 筑波小学校] 3組に分かれてまねっこリズム。 わらべ歌(*つるつる かぎになーれ さおになーれ・・・(コミュニケーション・等拍練習)*川の岸の水車(言葉への集中→判断→動作)*なべなべそっこぬけ(協力) 自己紹介遊び とんとん名前 とんとん好きな食べ物 輪になって音楽にあわせてボールをまわそう(等拍練習) ミュージックベル 茶色の小瓶 愛の挨拶</p> <p>[2回 2007・11・28 筑波小学校] ピアノ演奏 素敵なのが 交互唱 素敵なのが わらべ歌*つるつる かぎになーれ 川の岸の水車 なべなべ 歌 あわてんぼうのサンタクロース ミュージックベルでパッフェルベルのカノン ピアノの話 ピアノでパッフェルベルのカノン・ お尻かじりむし 歌・踊り・ピアノで練習 愛の挨拶</p> <p>[3回 2008・1・30筑波小学校] ピアノ ピアノアンサンブル 小さな世界・一晩中踊り明かしたい・お砂糖ひとさじ わらべうた*からすかずのこ 季節の歌 鬼は外 福は内 (1番と2番) 折り紙のボールを 鬼のボードに歌いながら投げる ブルースの伴奏で 言葉(リズム)遊び (3連符・その他・・・) アブラハムの子 愛の挨拶 くまさんくまさんさようなら</p>					

9	<p>主な活動内容 (実施回毎に)</p>	<p>[4回 2008・2・20 筑波小学校] ピアニカ・ピアノアンサンブル 小さな世界・ト調のメロディー 三重奏で御挨拶 (和音・短調・長調) 交互唱 素敵なのが (テンポ変化・強弱・リズム打ち) わらべうた*ひらいたひらいた*川の岸の水車*なべなべ ミュージックベル で音階 パッフェルベルのカノン演奏 愛の挨拶 くまさんくまさんさようなら</p> <p>[5回 2007・12・21つくば市立東児童館] クリスマス会 ピアニカ・ピアノ合奏 ホワイトクリスマス・あわてんぼうのサンタクロース・小さな世界・お砂糖ひとさじ 音楽クイズ *エリーゼの為にを弾き作曲者の写真を当てる。①カリブの海賊の写真②ベートーベン③福田総理大臣 *威風堂々の曲当てクイズ 英語名と日本語名を出した ①威風堂々 ②ポンプ&サーカムスタン(英名)③チンジャオロースの歌 *威風堂々の作曲家エルガーの写真当てクイズ①エルガー②モーツァルト③児童館の先生 *ジングルベルの正しい演奏は何番か? *トランペット、マンドリン、ピアニカ、リコーダー、それぞれの曲をCDでかけ 楽器の音色当てクイズ 人形劇 手作りおやつタイム</p> <p>[6回 2008・2・12 つくば市立東児童館] 雪の降っている日だったので わらべ歌 ゆきこんこん→ 輪唱 わらべうた*つるつるかぎになーれ ブルース伴奏で 言葉遊び 「りんごとみかん・困ってしまってグレープフルーツ・おかーあさん」 (テンポ変化 強弱 等拍) わらべうた*下駄隠し盗ねんぼう(フォルテとピアノの練習) 親子でミュージックベル</p>
10	<p>計画した活動内容の実施結果</p>	<p>【うまく実施できた点】 ①子どもたちが習得しているのがピアニカだったので、生演奏はピアニカとキーボード伴奏を心がけた。ピアニカが教材から楽器になったようだ。②今まで全員で手をつなぐ経験のなかった子どもたちがわらべ歌遊びを通じてひとつの輪になれば、規則を守りながら笑顔で遊ぶことができた。③課題を提供すると 子どもたちの発想で発展させていく場面も何回か経験した。④指導者と子どもたち、現場でのコミュニケーションが温く幸福だった。</p> <p>【課題として残った点】 ①わらべ歌による等拍感・連帯感・順番待ち、公平さ、ルールを守った遊びの楽しみ、を味わえた。しかし時間が短く、遊びにとどまり音楽的知識の蓄積や練習を積み重ねていくステップアップまで到達できなかった。カリキュラムの再校正をさせ より充実させたい。</p>
11	<p>目ざす効果・成果が得られたか</p>	<p>【高く評価できる効果・成果】 ①ピアニカに対する認識が変わった。[ピアニカも楽器だったのだという認識] ②私達が外部からの参加の為に子どもたちのクラスでの先入観がない。抱いて子どもたちを教室とは異なる雰囲気指導でき、結果的に教室内ではリーダーでない子どもの「居場所」を作ることができた。この事は担任も第三者の立場で新たな角度で子どもを観察できたと喜んでいらした。</p> <p>【得られなかった効果・成果】 時間の関係上継続的 内容項目が少なかった。</p>
12	<p>今回の事業の実施で</p>	<p>【工夫した点】 時間が限られていたので、カリキュラムを効果的に展開できるよう心がけた。小規模の小学校の為にクラスが卒業時まで続く為、子どもたちが遊びを通し思考の多様性を含んだ上でのコミュニケーションが計れるよう、手をつないだり、身体を寄せ合って(低学年なので)相談して遊ぶ内容も取り入れた。</p>

12	今回の事業の実施で	【苦勞した点】 音楽の基本を根底に含ませながら集団を退屈させずに遊びの中から引き出す方法を考え出すのに苦勞した。
		【予想以上に成果があがった点】 集団わらべ歌の規則を守って遊ぶことができた。*リズム等を通して恥ずかしがらずに自分で考えた表現動作を披露できる子どもたちもいた。子どもたちのそれぞれの良いところと接することができた。
		【次回実施への課題】 ①一人一人が役割の異なるアンサンブルに取り組みたい。〔カスタネット・ピアノカ・手作り打楽器・歌等〕 ②「学び」を「遊び」に転換させそれぞれの子どもを力を引き出す方法の模索。
13	来年度以降の取り組みについて	【市区町村との連携状況】 ①年度末で終了の形をとっている ②来年度に関しては 春休み中に出向き、つくば市の方針を拜聴する予定。



調査者からのコメント

今回の調査は全計画4回のうち4回目の活動において実施されたものである。小学校の低学年児童を中心とした活動であった。活動は、児童の保護者も参加して和気藹々行われた。

本プログラムにはいくつかの成果を見てとることができる。まず何をおいても、子どもたちがこのプログラムに参加することをたのしみにしている様子が見てとれたことがその第一であろう。4回の実践で子どもたちの積極的な参加をつくり出し、子どもたちとの間に豊かな関係を構築することができる指導者の力量を確認することができた。

今回は三重奏での挨拶の合唱から始まり、指導者によるピアノ・ピアノアンサンブルの演奏と続いた。さらに交互唱やわらべうた遊び、ミュージックベルの合奏とさまざまなプログラムが用意されていた。低学年の子どもが多いということも十分意識され、子どもたちを飽きさせないプログラム上の工夫がなされていた。

また、それぞれの活動が相互に関係づけられており、プログラムが一定のストーリーのもとに構成されていることが理解できた。こうした点も子どもたちを飽きさせない大きな工夫であろう。

さらに、単に子どもたちを飽きさせないというレベルにとどまらず、活動を通して基礎的な音楽性を子ども

たちに獲得させることになっていたことも重要な成果であろう。一つの活動をたのしく構成するとともにその活動を通して少しでも音楽的成長を図ることができるようにプログラムが構成されていた。この点も成果として評価することができる。

こうしたプログラム上の工夫と同時に、子どもたちへの対応という点でも、指導者の力量の高さを感じることができた。指導者の保育園などでの指導経験が十分に活かされている結果であろう。そうした指導者の力量を背景に子どもたちは生き生きと活動に参加することができていたと考えることができる。

今回のプログラムは4回で終了するが、学校や保護者からぜひ継続してほしいという声が寄せられていると聞いた。これは本プログラムが高い成果をあげたことを物語るものだと言わなければならない。来年度以降、市の協力を仰ぎ、さらにこのプログラムを継続していきたいという指導者の熱意も感じることができた。

以上から、本プログラムは放課後子ども支援事業として十分な成果をあげていると感じることができた。

(八木正一)

3-5 「平塚おんがくっ子塾」

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名(教育委員会等)	平塚市教育委員会、平塚市役所市民部青少年課					
3	教室名	子どもの家(みなと・山城)おんがくっ子					
4	実施場所	みなと子どもの家、山城子どもの家、中央公民館					
5	実施回数	10回					
6	講師等	講師数	3~5人		謝金単価	10,800(5400/1h×2)円	
		安全管理員数	4人		謝金単価	1,440(720/1h×2)円	
7	参加者(1回あたり)	①対象学年	小学生	②幼児参加の有無	○有・無	③子どもの数	28人
8	参加者の募集方法	教育委員会を通して募集チラシを公民館、小学校に掲示					
9	主な活動内容(実施回毎に)	<p>① 12月10日(月):トーンチャイム、箏、古箏演奏体験</p> <p>② 12月17日(月):管楽器の説明と演奏体験(ホルン、ハンティングホルン、ポストホルン、箏、トーンチャイム)</p> <p>③ 12月22日(土)邦楽・洋楽・民族音楽(内モンゴル)・・・古箏によるモンゴル音楽の演奏と解説、箏の演奏と演奏体験(♪さくら)、トーンチャイム演奏体験(♪音階、♪きらきら星、♪ドレミの歌)</p> <p>④ 1月26日(土)親子リトミック(♪セブンスステップス、♪こきりこ、♪箏のおどり、♪パラパラ、♪とんぼのめがね、♪てのひらを太陽に、♪お弁当箱のうた)、トーンチャイム演奏体験(♪ドレミのうた・メロディー、コード奏)箏の演奏体験(♪さくらさくら)</p> <p>⑤ 2月4日(月)トーンチャイム演奏体験(♪ドレミの歌、♪エーデルワイス、♪聖夜)箏の演奏体験(さくらさくら)</p> <p>⑥ 2月16日(土)♪箏の踊り、♪こきりこ、合唱(♪ドレミの歌、♪にんぎょ姫のミュージカル)</p> <p>⑦ 2月18日(月)トーンチャイム(♪きらきら星、♪ドレミの歌、♪かっこう、♪かえるの歌)箏演奏</p> <p>⑧ 3月3日(月)ミニコンサート&演奏体験・・・♪春の海(箏・フルート)、♪アヴェマリア(フルート、ホルン、キーボード)、♪花、♪モンゴルの音楽(古箏)他</p> <p>⑨ 3月15日(土)金管5重奏おもしろ音楽講座・お話&演奏&演奏体験(トランペット・ホルン・トロンボーン・チューバ)ディズニー名曲メドレー 他</p> <p>⑩ 3月17日(月)トーンチャイム(♪ドレミのうた、♪エーデルワイス、♪こぎつね)箏(♪さくら、♪しゃぼん玉)アングルン演奏体験(コード表現)合奏体験</p>					
10	計画した活動内容の実施結果	<p>【うまく実施できた点】</p> <p>音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施を通して、子どもたちの豊かな心を育む。音楽の色々な活動があったため、低学年の子どもが飽きずに活動出来た。</p>					
		<p>【課題として残った点】</p> <p>楽器の扱いが雑なので、大切に扱うように指導を心がける。楽器を持ち歩き、元の所に返さず、楽器の管理に問題があった。</p>					

11	目ざす効果・ 成果が得られたか	【高く評価できる効果・成果】 楽器を演奏する喜び、楽器に対する興味が湧き、次回来ることを楽しみにしている子供が増えた。
		【得られなかった効果・成果】 楽器を大切に扱うことを習慣づける。
12	今回の事業の実施で	【工夫した点】 それぞれの楽器で演奏する曲目を関連付けて選曲した。色々な楽器の特徴を分かりやすく視覚と聴覚で紹介した(カードと音源)。トーンチャイム・アンクルンなど単音の楽器には色別に音階を決めて、分かりやすくした(赤→ド、だいたい→レ、黄色→ミ、etc)。ホース、漏斗、マウスピースを使って金管楽器の音の出る仕組みを説明し、体験してもらった。
		【苦労した点】 多動性障害児の子供が参加すると、指導員が一人付ききりにならないと全体の活動の雰囲気が壊され、音楽活動に専念できなくなった。学校の時間割が事前に分からず、子供たちが十分に参加する時間が確保できないときもあった。
		【予想以上に成果があがった点】 山城子どもの家では学校帰りの小学生の参加者が多く、自然に音楽活動に参加し、特に楽器演奏には興味を示し、次回の活動日を楽しみにしていた点。みなと子どもの家では日が短い時期だったため土曜日に実施したところ、親子で参加し親子のコミュニケーションもはかれ、また父親が箏のえんそうに興味をもち親子で積極的に参加をし活動を楽しんでくれた。指導スタッフや子どもの施設のスタッフも協力してくれたため障害児も継続して参加出来た。
		【次回実施への課題】 開講日や開講時間を事前に学校や子どもの家の職員と検討し、効率よく子供たちが参加できるよう配慮する。
13	来年度以降の 取り組みについて	【市区町村との連携状況】 平塚市教育委員会社会教育部社会教育課(石塚誠一郎氏担当) 平塚市役所市民部青少年課(青地俊朗氏担当)のもとで、子どもの家(市内4箇所あり)を基点に公共の施設で4月以降活動を継続予定。



調査者からのコメント

神奈川県平塚市は、相模川と金目川の流れが相模湾に注ぐ流域に発達した都市で、商工の産業と自然景観の広がりバランスよく溶け込んでいる。人口は10万人を少し越える規模である。

「子どもの家おんがくっ子塾」は、生涯学習音楽指導員研究会・ネットワーク神奈川のメンバー（代表・大屋啓子氏）によって企画実施されたものである。会場は、地区の「子どもの家」（青少年施設）2カ所、及び中央公民館の3カ所で実施された。実施回数は、合計10回であった。事業のねらいは、子どもたち（小学生のほか幼児も参加）が音楽を身近なものと感じ、楽器に楽しく扱えることにおかれた。楽器としては和楽器と洋楽器のいずれも取り入れられた。主なプログラムは、奏者による演奏、楽器の知識普及と音出し体験、合唱・合奏体験である。

筆者が活動実態の調査に入ったのは、平成19年12月22日（土曜日）午前中の「みなと子どもの家」での「あつまれ、おんがくっ子」事業であった。すでに、募集チラシは小学校や公民館に配布されていた。参加した子どもは、幼児を含めて13名（男子7名、女子6名）と付き添いの祖母1名だった（時間帯によって人数と性別に若干変動があった）。

展開の流れは概ね3段階になる。第1段階は、箏（琴）の説明と奏者による実演だった。和楽器にまつわる話に子どもたちは興味をそそられていた。「六段の調べ」が演奏される前には、作曲者の八橋検校の話や京都銘菓「八ッ橋」の由来などが解説され、うなずく子どもも多かった。

第2段階は、古箏の解説とモンゴル音楽演奏だった。講師は若手演奏家のウリアナ（Wuriana）さんで、出身の中国内モンゴルのこと（大自然を残しつつ、中心都市のフフホトなどでは急速な都市化が進んでいることなど）、古箏21弦のしくみなどが穏やかな日本語で語られた。名曲「草原の花嫁」の演奏は、子どもならずとも圧倒されるほどすばらしいものだった。

第3段階は、トーンチャイムの演奏体験と合唱だった。トーンチャイムに触れるのは初めてという子どもたちがほとんどのようだった。子どもたちは、音出しから始まって「ドレミの歌」の合奏まで、何とかこなしていた。このあたりになると子どもたちは完全に気持ちが打ち解けたようだった。合唱に移る前に指導者が子どもたちに「カシ（歌詞）ある？」と確認したところ、男の子が「カシ（菓子）もってくるよ」といって会場を飛び出そうとして、会場は笑いに包まれた。

全体として、「子どもの家おんがくっ子塾」は、楽器や音楽を楽しめる子どもを育てるという、当初のねらいを十分に達成したと思われる。役所の青少年課や社会教育課との連携協力の関係も良好な状態を維持していると思われる。来年度も、この事業を継続して実施する予定だという。筆者は、この事業を実施された方々には、音楽の情操を育てるという切り口から、引き続き生涯学習の定着を目指した地域活動を進めていただくことを期待したい。

（野島正也）

3-6 「三好子ども音楽セミナー」

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	三好町教育委員会 教育部 教育行政課					
3	教室名	三好子ども音楽セミナー					
4	実施場所	新屋児童館					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4人		謝金単価	5,400 × 3h円	
		安全管理員数	4人		謝金単価	720円 × 2.5h円	
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年	小1～小6	②幼児参加の有無	○有・無	③子どもの数	40人
8	参加者の募集方法	案内用チラシの配布					
9	主な活動内容 (実施回毎に)	<p>音楽総合講座 第1回～第4回</p> <p>①いろいろなジャンルの音楽を学び合唱する。 ♪線路はつづくよどこまでもマーチ ♪大きな古時計 ♪涙そうそう ♪7つのフランスの子どもの歌～げんきなこども・かあさんおねがいよ～</p> <p>②アンサンブルをする楽しさを学び合奏する。 ♪線路はつづくよどこまでもマーチ ♪おもちゃの兵隊の行進 ♪カルメン前奏曲 ♪ボレロ</p> <p>③リズムステップを通してリズム表現の楽しさを体験する。 ♪アララの呪文 ♪Dear Woman</p> <p>第5回 修了コンサート 第6回 三好町生涯学習発表会 芸能発表出演</p>					
10	計画した活動内容の 実施結果	<p>【うまく実施できた点】</p> <p>①合唱、合奏、リズムステップといった共同作業を通して、楽しく学ぶことができた。②基本的な挨拶や礼儀が、きちんとできるようになった。③幼児～小6まで、音楽を通して、異学年交流とふれあいが楽しくできた。④学んだ成果を発表する場を設け修了コンサート♪を実施し、三好町生涯学習発表会♪に出演し、楽しく発表できた。</p>					
		<p>【課題として残った点】</p> <p>音楽の基礎能力、知識力、理解力、読譜力など、個人差があるので、指導に工夫を要した。両手のパートを右手だけにするなど、アンサンブル曲のアレンジをし直したり、時間がかかった。またうまく弾けない幼児や児童に指導員が付きっきりになる場面もあり大変だった。</p>					
11	目ざす効果・ 成果が得られたか	<p>【高く評価できる効果・成果】</p> <p>①合奏、合唱、リズムステップといった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むことが出来た。 ②基本的な挨拶とその大切さを学ぶことが出来た。 ③音楽を通して、豊かな心を育むことが出来た。</p>					
		<p>【得られなかった効果・成果】 特にありません。</p>					

12	今回の事業の実施で	【工夫した点】 名札の作成、皆勤賞の作成、パート譜の作成、立ち位置の図表の作成～発表会用～、来年度に向けてのアンケートの実施
		【苦勞した点】 読譜力に差があり、グループ分け、パート分けに時間がかかった。
		【予想以上に成果があがった点】 三好町生涯学習発表会に出演し、幼児～小6年までの子どもたちが、全員で力を合わせて6曲発表した。子どもたちの真剣な眼差しが印象的だった。また自閉症の子を皆で労わったり、励ましていたりしていた。心温まる時間を共有できた。
		【次回実施への課題】 アンケート調査結果では、ほとんどの受講生が継続希望であった。来年度でセミナーも4年目を迎える。全てのプログラムをもう一度見直し、質の高いレベルアップした音楽講座を目指して往きたい。地域と連携し、子どもの健全育成にもより一層寄与したい。
13	来年度以降の取り組みについて	【市区町村との連携状況】 三月中旬に、平成19年度の活動報告書を、三好町教育委員会に提出する。三好町は、全国生涯学習市町村協議会に加盟しているが、放課後子どもプランの導入は内定していない。セミナーとして来年度の活動は決定しているので、再度、お願いに伺う予定。



調査者からのコメント

調査を実施したのが全計画12回のうちの10回目であり、次々回にコンサートの本番を迎えるので、仕上げに近づいている時期であった。そのことから判断すると、順調にスケジュールをこなしてきていると感じるような内容であった。わずか6回の練習で本番まで持つて行くのは容易ではないだろうが、適切な指示と指導によって、うまく運営されている姿を観察することができた。

また子どもたちが、活動にぐずつくことなく、3時間の間、一定の緊張感をもって望んでいたことを視察できたが、これはプログラムの多様性によるものであろう。いろいろあって、少し欲張ったプログラムだと感じはしたが、子どもたちには決して負担にはなっていない様子であった。それに曲目編成の上手さも、子どもを惹きつける要素となっていると感じた。選曲が大変だと思われるが、子どもにやる気を持たせることが何よりも大切だからである。どなたのご指導なのか分からないが、リズムステップの振り付けの心地よさが、子どもの心をより豊かなものにしてるように思ったのは私だけであろうか。

子どもたちも前向きで元気がよく、指導者の意見に素直に耳を傾けて、楽しそうに取り組んでいる姿勢がとても印象的であった。

プログラムがさまざまな音楽で構成されているので、多様な文化体験が図れるようになっていた。提供されている音楽ジャンルが多様であるということだけでなく、いろんな身近な楽器を使って合奏するなどの試みがあったことを評価したい。こうした文化体験は、学校教育においてはなかなか体験できないものであり、放課後子ども支援事業としての趣旨から考えても申し分がない企画であったと考える。

障害のある子ども、年齢的に低い(5歳児か?)子どももいたが、参加者の輪の中に入っていた点が印象的であった。

実施責任者の言葉として、「継続は力なり」の気持ちが大切で、そのことを重視している旨の発言があったが、その通りと思われ、こうした音楽セミナー事業を継続していくことにより、はじめて多くの参加者を得ることができるようになる。また継続して学習の場が提供されることが、大勢の保護者や地域住民からの信頼を手に入れることができるであろう。今回も何人の保護者の送迎、観察があり、ビデオカメラを持った保護者もいたが、こうした人たちがセミナー事業を通して指導者に感謝と信頼の気持ちを持ったように思えるのである。

事業の継続について述べてきたが、指導者が何人かおられることから、その方々が別の場所でも、「〇〇町子ども音楽セミナー」を実施することによって、音楽活動の面的発展を図ることも必要になってくるのではないかと感じた。

何にも増して重要なことはリーダーの役割であろう。いわゆるリーダーシップということである。このセミナーでは、指導者の新谷氏はコーディネートの視点から全体的な指示、連絡や注意を発しておられたが、個別のプログラムにおいては担当された若い指導者に任せて自分は1人のスタッフとして参加するというスタンスであった。実際には障害のある子どもを中心に、技術的に遅れ気味の子どもへの指導であった。対応が見事であると思った。

(今西幸蔵)

3-7 「錦林KIDS音楽クラブ」

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。					
2	窓口となる地方公共団体名(教育委員会等)	京都市教育委員会指導部地域教育専門主事室					
3	教室名	錦林KIDS音楽クラブ					
4	実施場所	京都市立錦林小学校					
5	実施回数	6回					
6	講師等	講師数	4人	謝金単価	5,400円		
		安全管理員数	なし	謝金単価	0円		
7	参加者(1回あたり)	①対象学年	小3~小6	②幼児参加の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	③子どもの数	15人
8	参加者の募集方法	学校側が校内児童に呼びかける。					
9	主な活動内容(実施回毎に)	<p>第1回: 「なべなべ」で身体と心を暖める⇒「リズム遊び」リズムのまねっこ遊び⇒ 京の通り名の歌「丸竹夷」「寺御幸」を歌う⇒《お箏の練習》練習帖・さくら・通り名の歌を一瀬先生のピアノに合わせて演奏する</p> <p>第2回: 「なべなべ」⇒「リズム遊び」輪になってカスタネットでまねっこ⇒ハンドベルで「赤鼻のトナカイ」演奏⇒通り名の歌⇒《お箏の練習》練習帖・さくら・通り名の歌をはじめて伴奏クンと弾く ☆久保田先生が状況視察で来校される生徒が楽しんでいと講評を頂く</p> <p>第3回: 「なべなべ」⇒リズム遊び ささまざまな楽器を使って⇒通り名の歌…暗唱して歌おう 《お箏の練習》練習帖・さくら・通り名の歌を伴奏クンと弾く</p> <p>第4回: 「リズム体操」寒いので身体を使つての運動がてら⇒自分たちでリズム譜を作って演奏してみる…「すずめがサンバ」に合わせて⇒ 《お箏の練習》練習帖・さくら・通り名の歌を伴奏クンと弾く⇒通り名の歌を大きな声で歌おう!⇒最後にブームワッカーで「聖者の行進」を色音符の楽譜を見て演奏</p> <p>第5回: 「リズム遊び」♪聖者の行進をブームワッカー、ハンドベルで演奏する 《お箏の練習》練習帖・さくら・通り名の歌を伴奏クンと弾く⇒大きな声できれいに歌おう</p> <p>第6回: ♪聖者の行進をブームワッカー、ハンドベル、トーンチャイムで演奏する⇒ 《お箏の練習》練習帖・さくら・通り名の歌を伴奏クンと弾く ⇒すっかり覚えて歌えました</p>					
10	計画した活動内容の実施結果	<p>【うまく実施できた点】</p> <p>生徒が非常に前向きで、しかも従順なので課題はいつも実行できました。箏の演奏、打楽器の演奏、リズム譜つくりと結果的に楽しく実施でき有意義な時間を生徒同士、指導員と生徒間に持てました。授業では扱われることの少ない楽器に触れることで、子どもたちの目も輝き、演奏することに真剣に取り組んでくれたと感じました。このことは、学校の授業とはちがった時間となったのではと推察しています。</p>					
		<p>【課題として残った点】</p> <p>① 寒さと冬休みをまたぐ時期だったせいか、出席者が少なかった。</p> <p>② 6月から実施のクラブのなかの6回だったので、実際の6回での状況ではないかもしれない。</p> <p>③ 上の第3回の後に錦林音楽祭の出演があったが、6回完結の活動では6回目に発表会となるはずである。</p>					

11	目ざす効果・ 成果が得られたか	<p>【高く評価できる効果・成果】</p> <p>① 生徒がいきいきと学年の枠なしで演奏をしている姿はなによりの成果である。リズムの勉強も講師の努力で遊び感覚で楽しく出来たのも効果的であった。</p> <p>② 京都の通り名の歌も暗唱して歌えるようになったことは確かな今後の伝承になる。</p> <p>③ 普段の遊びから姿を消しつつある遊び歌を寒さの中喜んで遊戯したのも昔遊びの伝承となる。</p> <p>【得られなかった効果・成果】</p> <p>① 生徒同士のコラボの合奏までいかなかったことは少し残念である。</p> <p>② 人数が少ないので伴奏クンとの合奏という形での演奏となった。</p>
12	今回の事業の実施で	<p>【工夫した点】</p> <p>① リズム譜づくりでは福引式に色別の音符ピンポン玉を使って「お楽しみ」楽譜作りとした。</p> <p>② コラボ曲までは無理だったので箏の曲をアレンジして、MIDIデータに伴奏を入れて、それを聞きながらの演奏となったが、奏者・聞き手共にテンポが崩れないという点で好評であった。</p> <p>③ 毎回ごとに少しづつ進歩していけるようなカリキュラムを組んで無理なく楽しめるようにした。</p> <p>【苦勞した点】</p> <p>当初の人数が寒さと冬休み明けという悪条件のせい、出席者が回毎にかわったのは、初めての楽器を触る子どもに使い方を説明しなければいけないため、毎回出席している子どもにとっては、指導が重複して少し工夫を要した。</p> <p>【予想以上に成果があがった点】</p> <p>お箏の演奏面で曲の熟知を心がけたため、テンポも最初のゆっくりから本来のテンポで弾けるようになり、スキル面での進歩は著しかった。 リズム楽器の面では単なるリズム打ちから、全員違う楽器・違うリズムで曲に合わせて打てるようになったことや、プームワッカー・ベル・トーンチャイムを使う音階での演奏までの進歩があった。</p> <p>【次回実施への課題】</p> <p>生徒同士のコラボ演奏を目標にしたい。</p>
13	来年度以降の 取り組みについて	<p>【市区町村との連携状況】</p> <p>今のところありません。</p>



調査者からのコメント

錦林KIDS音楽クラブの全6回のプログラムのうち、12月3日の第2回を見学した。会場は図書室の横にある教室ひとつ分くらいの広さのある絨毯式のフロアーであった。私が到着したときにはすでに、フロアーには箏が並べられており、生徒の到着を待つばかりとなっていた。学校側の協力体制もかなりしっかりとしているように見受けられた。

全体で一時間ほどのプログラムであったが、リズム遊び、ハンドベルによる「赤鼻のトナカイ」の演奏(ちょうどクリスマス前の時期にあたっていた)、京都の通り名が北から順に歌っていくわらべ歌「通り名の歌」、そして最後に箏による「さくら」の演奏と、児童を退屈させないプログラムが、うまく配列されていた。

興味深かったのは、箏の合奏で、MIDIに伴奏が録音されていて、なかなかすばらしい演奏となった。

指導にあたられたのは、生涯学習音楽指導員の2名と協力者の3名であった。すでに音楽指導のベテランで、子どもたちの注意や関心がどこにあるのかを瞬時に察知され、手際のよいプログラム展開であったように思う。

筆者が見学したのは2回めであったので、その後いろんなところで改善を重ねられたと思うが、課題としてもらいたいこともあった。ひとつは、プログラムを消化していくという感じがあり、それぞれのプログラムでもっと子どもたちの感想を聞いたり、子どもたちに工夫させるなどの指導があってもよかったと思う。確かに普段の教室での授業と違うところが魅力なのではあるが、やはり「遊び」だけでなく、「教育」の視点も必要かと思う。やはり子どもたちに達成感を体験させることも必要かと思う。その点で、学校側からの指導というサポートも必要かもしれない。学校と密な連絡をとり、協力体制をある程度整えて実施することが大切であろう。

しかし京都の八橋検校の縁の地に住む子どもたちですら、なかなか普段箏に接する機会がないのは残念である。今後は他の小学校でも同様にプログラムを実施されることを望んでいる。

(久保田慶一)

3-8 「西宮子ども音楽セミナー～わいわいアンサンブル」

1	事業の目的	「音楽による放課後の先進的・効果的な活動プログラム(体験の場・交流の場)の実施」を通して、子どもたちの豊かな心を育む。				
2	窓口となる地方公共団体名 (教育委員会等)	西宮市教育委員会 社会教育・文化財グループ				
3	教室名	「西宮子ども音楽セミナー」～わいわいアンサンブル～				
4	実施場所	夙川西市民館				
5	実施回数	8回				
6	講師等	講師数	8人	謝金単価	7,000円	
		安全管理員数	1人	謝金単価		
7	参加者 (1回あたり)	①対象学年		②幼児参加の有無	○有 (1名) ・ 無	③子どもの数 40人
8	参加者の募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 近隣の小学校にチラシ配布(近隣関係校2000枚) ② 西宮市政ニュース掲載(11月) ③ 公民館・市民館にチラシ設置 ④ 大手新聞社掲載依頼 ⑤ ミニコミ紙掲載依頼 				
9	主な活動内容 (実施回毎に)	<ul style="list-style-type: none"> ① 12月16日 メリークリスマス! わいわい!! ② 1月6日 お正月だよ! わいわい!! ③ 1月20日 こきりことネコで! わいわい!! ④ 2月3日 チターだよ! わいわい!! ⑤ 2月17日 リハーサルだよ! わいわい ⑥ 2月17日午後 皆スマイル! 演奏わいわい!! ⑦ 2月24日 コンサートだよ! わいわい!! ⑧ 2月24日午後 ふれあいコンサート! わいわい!! 				
10	計画した活動内容の 実施結果	【うまく実施できた点】 <ul style="list-style-type: none"> ① ミュージカルを実施することで、歌、おどり、せりふ、効果音と共同作業をとおして児童の仲間意識、協調性を養うことができた。 ② 洋楽邦楽のコラボレーション「こきりこ」の実施にあたり、伝承音楽への理解、それに伴う古楽器への理解を促し、興味付けにつながった。 ③ ハープ・チター・クーグロックの演奏鑑賞、楽器体験で新たな楽器への関心を揺り起こした。 				
		【課題として残った点】 <ul style="list-style-type: none"> ① 高校生・大学生・大人の音楽クラブ・音楽団体との連携も必要と感じている。今回の回数では、時間的に無理があり、こういった、プログラムに実施は次回への課題となった。 				
11	目ざす効果・ 成果が得られたか	【高く評価できる効果・成果】 <ul style="list-style-type: none"> ① 放課後の地域での健全育成を図るため、児童・指導員・保護者・地域団体・地域住民からの理解、支援を受けることが出来た。 ② 地域の行事に参加することによって、「西宮子どもセミナーの内容・意義」を広く地域住民に伝えることが出来た。 				

11	目ざす効果・ 成果が得られたか	<p>【得られなかった効果・成果】</p> <p>① 発表のプログラムを重視したため、時間的制限から、「こきりこ」「手話」は十分に指導出来なかった。</p> <p>② 当初予定のハンドベルは指導教材を準備していたにもかかわらず、中止となった。</p>
12	今回の事業の実施で	<p>【工夫した点】</p> <p>① スムーズに台詞、歌を覚えられるよう、模造紙を毎回貼り付け自主練習させた。</p> <p>② 児童異年齢を10グループに分け、各グループを色分けし異年齢との交流、及び連帯で責任をもたせた。</p> <p>③ コンサートを盛り上げるために衣装を指導者で作成した。</p> <p>④ こきりこでは伝承音楽を理解させるためDVDを利用した</p> <p>【苦労した点】</p> <p>① コンサートに向けて、曲の完成度を高め、児童各自に自主的な活動をどう促すか、達成感をどう感じさせるか。</p> <p>② 舞台効果を盛り上げるため、舞台衣装を工夫した。</p> <p>【予想以上に成果があがった点】</p> <p>① 保護者の理解</p> <p>② 地域の教育機関へのアピール</p> <p>③ 地域団体との連携</p> <p>【次回実施への課題】</p> <p>① 今回の事業での保護者の参加は、チターのコンサート、ふれあいコンサートの鑑賞にとどまったが、保護者参加のプログラムも考え、親子のコミュニケーションの場として考えていくことも必要と感じた。</p>
13	来年度以降の 取り組みについて	<p>【市区町村との連携状況】</p> <p>① 保護者・児童・地域住民の要望書を作成し、西宮教育委員会・社会教育・文化財グループに継続をお願いする。</p> <p>② 今回の地域におけるコンサート参加により、小学校校長、及び自治会役員からも高く評価され新たに支援してくださる人々を、仲間とすることが出来た。事業報告と同時に、その成果を西宮市に伝え、再度放課後子どもプランとしての「西宮子ども音楽セミナー」の継続をお願いする。</p>



調査者からのコメント

12月中旬以降のたった6回の練習で、このレベルまで到達していることに驚いた。ゲネプロでの演奏では声が小さくて心配したが、それは杞憂に終わった。本番での演奏ではうまくいったのではないかと考える。本番では他の団体が出演する訳であるから比較ができるので、子どもたちとしては見事な演奏だったと思う。

ミュージカルということで、振り付けがあったが、コメディタッチのこの曲の個性を子どもたちが的確に把握していた。子どもの笑顔が良かったし、この背景には、和やかな指導者の存在があったからではないだろうか。子どもたちがのびのびと活動・演奏していた姿が一番だと思われる。それに、子どもたちがお揃いのTシャツなので可愛かったことを付け加えておきたい。

子どもたちが、こうした事業を通して体験し、交流するといった事業の趣旨にマッチした練習を重ね、その成果の発表という視点からも素晴らしいステージであった。

子どもたちにとって、ミュージカルを演じるという文化活動体験は、それほど機会に恵まれるものではない。学校でも年1回あるかないかということではないか。このように貴重な体験学習の機会を持つことができた子どもは、きっと多くのことを学び得たにちがいない。事業終了後に、修了証をもらっていたが、とても嬉しそうであった。

練習風景を観察していて思ったことは、参加者全員に信頼感があったことである。みんながつながっていると感じた。たとえば昼食時に一緒に遊んでいたりと、声かけをしているので、学年が同じだと思っていた子どもが、実は学年が異なっていたり、通学する

学校が異なっているようなことを後で知った。このことは、子どもたちが積極的に交流していることを意味するであろう。

さすがに関西地区で一番の文化地域だと感じた。青愛協を中心にしての関係者の連携・協力を横から見ていて、文化的先進地域であることを再確認した。こうした地域でのモデル事業であり、このプログラムと実践の経緯を全国に発信しても良いのではないかと思っている。

会場では、とても気持ちの良いコンサートが実施されたし、ゲネプロしか観ていないが、そこに至る子どもたちの練習ぶりも積極的で素晴らしかった。特に感じたことは、年齢を超えた交流と支えあいの姿である。自然な形で異年齢児童と付き合っていることが、何よりもすごいことである。

この事業に対する保護者や地域住民のスタンスにも感心した。積極的に協力しようとする気持ちを感じることができ、このコンサート等を企画・実施された夙川地区青少年愛護協議会の皆さんの熱心な仕事ぶりと、協力の姿勢も評価したい。恐らく、行政支援もあるのだろうけれども、自分たちで「まちづくり」を進めているといった気持ちに共感することができた。

報告の最後になるが、指導者スタッフが岩崎氏を信頼し、みんながつながっていたことを再度評価したい。こうした連帯感こそが、事業の成功への原動力になるからである。

(今西幸蔵)

4 総括

全体として、すべてのプログラムが円滑に実施され、多くの成果を挙げている。その背景となる要因、すなわち、今後全国的に放課後活動支援事業を実施するようになって必要となる要件は、次の3つであることが明らかになった。

第1に、リーダーシップがあり、かつ専門的に技能をもった指導者が地域で活動していること。今回のモデル事業は、生涯学習音楽指導員A級（10年以上のベテラン）の資格もった方がリーダーとなって実施されたものである。ある意味で、成果が得られるのは当然である。今後は、こうした地域のリーダーの育成、さらに謝金面でのサポートが、行政側に求められる。

第2には、学校側の協力が不可欠であること。正課の授業とは異なることを楽しみまた学ぶのであるが、教育という視点がなくなってしまうと、単なるリクリエーションになってしまう。正課の授業ではないことを放課後に行うという考えが双方に必要となろう。学校は指導者に「丸投げ」せず、また指導者も好き勝手にしないという原則を、実施前に確認しておくことも必要だろう。

第3に、事業が継続できるように、指導者、学校、行政の3者が共通の理念をもち、努力しあえる体制を構築しておくことが必要である。特に行政側が事業を継続するために予算措置をしておくことがいうまでもない。単なる思い付きでの事業では、実施する方も、受講する児童・生徒も迷惑としかならないだろう。

今後、「放課後活動支援事業」の音楽分野においては、生涯学習音楽指導員の活躍が大いに期待できる。

(久保田 慶一)

調査委員会委員

今 西 幸 藏	(天理大学教授)
*久保田 慶 一	(東京学芸大学教授)
澤 崎 眞 彦	(東京学芸大学教授)
立 田 慶 裕	(国立政策研究所主任研究官)
野 島 正 也	(文教大学教授)

* 委員長



財團法人音樂文化創造